

解答は別紙の解答欄に記入しなさい。

I 次の文章（イ～ハ）を読んで、空欄（A～O）に該当する適当な語句をそれぞれの語群の中から選び、1～5の数字を解答欄に記入しなさい。

（イ）17世紀には、農業技術が飛躍的に進歩し、それとともに新田開発が盛んになった。紫雲寺潟新田や川口新田などに代表される（ A ）は、当時の経済状況を反映したものである。新田開発のためには用水が引かれたが、（ B ）は、武蔵国足立郡の新田開発のために利根川から引いたものである。農具については、鉄が貴重であったので、それまで鉄の部分が少ない（ C ）が使われていたが、やがて柄の先の木製部分がすべて金属製で平らなものになり、さらにそれを改良した深耕可能なものが開発された。揚水機については、一人で操作できる（ D ）が発明され、それまでの二人で扱うものよりも効率的なこともあって普及していった。また、金肥が使用されるようになり、代表的なものに油粕や干鰯があるが、鰯は房総の九十九里浜で発達した（ E ）により大量に獲れたことが知られている。

- | | | | | | |
|---|----------|----------|----------|--------|---------|
| A | 1 代官見立新田 | 2 町人請負新田 | 3 土豪開発新田 | 4 藩営新田 | 5 村請新田 |
| B | 1 荻窪用水 | 2 豊川用水 | 3 野火止用水 | 4 箱根用水 | 5 見沼代用水 |
| C | 1 殻竿 | 2 千石笹 | 3 備中鍬 | 4 風呂鍬 | 5 窓鍬 |
| D | 1 筒車 | 2 なげつるべ | 3 はねつるべ | 4 踏車 | 5 竜骨車 |
| E | 1 竿釣漁 | 2 地曳網漁 | 3 定置網漁 | 4 延縄漁 | 5 船曳網漁 |

（ロ）農業の発展には、農書の作成が大きく寄与している。宮崎安貞は、中国の明の徐光啓の著作から影響を受けて『（ F ）』を著し、それまでの農書の水準を著しく引き上げた。大蔵永常は、『（ G ）』において、農作物の栽培方法から農業が国に役立つことまでをも論じている。農学に近いとも言える本草学では、（ H ）の『庶物類纂』の編纂が開始され、彼の死後、将軍吉宗の命令によって弟子達が事業を継承して完成させた。また、正確な暦が作成されたことも、農業の発展には重要である。渋川春海は、中国の元の（ I ）を基にして、それまで使用されていた暦を正して新たな暦を作成した。この頃、筆算による代数計算が発達しており、（ J ）が『発微算法』を著している。

- | | | | | | |
|---|---------|--------|---------|--------|--------|
| F | 1 清良記 | 2 農業全書 | 3 農政全書 | 4 農政本論 | 5 百姓伝記 |
| G | 1 華夷通商考 | 2 経済要録 | 3 広益国産考 | 4 菜譜 | 5 老農夜話 |
| H | 1 青木昆陽 | 2 稻生若水 | 3 貝原益軒 | 4 佐藤信淵 | 5 野呂元丈 |
| I | 1 格理暦 | 2 時憲暦 | 3 授時暦 | 4 貞享暦 | 5 宣明暦 |
| J | 1 麻田剛立 | 2 関孝和 | 3 高橋至時 | 4 安井算哲 | 5 吉田光由 |

(ハ) 江戸後期には、庶民の生活の向上にともなって、遠方の寺社への参詣が行なわれるようになった。下総国の(K)は、その近くの出身であった初代市川団十郎が帰依し、それに関係する演目を上演したこともあり、のちに参詣が盛んになった。山岳信仰は、富士山が有名であるが、富士山を信仰・参拝するために各地で富士講が組織され、寺社に小富士が造られた。相模国の大山には(L)があり、雨乞いの神として農民の信仰を集め、大山詣が流行した。巡礼では、観音菩薩の札所のものが多かったが、主要なところでは、(M)は観音菩薩の札所を一部しか含んでいない。伊勢神宮へは、(N)と呼ばれる集団参拝が流行した。また、(O)は、室町時代にインドや中国の要素を取り込んで成立したものであるが、金銭的に豊かになることを願う信仰として発達し、社参りが行なわれるようになった。

- | | | | | | |
|---|-------------|-----------|-----------|---------|---------|
| K | 1 久遠寺 | 2 金毘羅宮 | 3 新勝寺 | 4 諏訪大社 | 5 善光寺 |
| L | 1 阿夫利神社 | 2 熊野神社 | 3 寒川神社 | 4 鶴岡八幡宮 | 5 比々多神社 |
| M | 1 和泉西国三十三カ所 | 2 西国三十三カ所 | 3 四国八十八カ所 | | |
| | 4 秩父三十四カ所 | 5 坂東三十三カ所 | | | |
| N | 1 御蔭参り | 2 三社参り | 3 千日参り | 4 代参 | 5 百度参り |
| O | 1 荒神信仰 | 2 地藏信仰 | 3 七福神信仰 | 4 大師信仰 | 5 不動信仰 |

II 次の文章(イ～ハ)を読んで、文中の空欄(A～O)に該当する適当な語句をそれぞれ語群の中から選び、1～9の数字を、語群の中に適当な語句がない場合は0を、解答欄に記入しなさい。

(イ) ドイツの公法学者(A)の主唱した国家法人説に基づき、(B)が1912年に、『憲法講話』で天皇機関説を唱えると、同じ(A)のもとで学んだ(C)と論争となった。1920年代から30年代前半にかけて、天皇機関説は広く認められる学説であったが、1935年、(D)本会議において、菊地武夫により天皇機関説を非難する演説が行われ、軍部や右翼による攻撃も激化したため、(B)は(D)議員を辞職することとなった。また、(E)内閣は「国体明徴声明」を出し、天皇機関説は公的に否定された。

- | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | ロエスレル | 2 | フェノロサ | 3 | 上杉慎吉 | 4 | 元田永孚 | 5 | 岡田啓介 |
| 6 | 広田弘毅 | 7 | 田中義一 | 8 | 枢密院 | 9 | 衆議院 | | |

(ロ) 軍部の内部では、天皇中心に国家改造を説く(F)と、軍・官僚・財界の結束のもと高度国防国家を目指す(G)とが対立していた。1936年には、『日本改造法案大綱』などを著した(H)の思想的な影響を受けた一部の将校たちが、昭和維新を断行すべく、二・二六事件を引き起こし、(I)内大臣、(J)蔵相らを暗殺したが、反乱軍として鎮圧された。この事件をきっかけに陸軍では(G)が主導権を掌握していった。

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|------|---|------|---|------|
| 1 | 尊王派 | 2 | 統制派 | 3 | 石橋湛山 | 4 | 石原莞爾 | 5 | 松岡洋右 |
| 6 | 斎藤実 | 7 | 犬養毅 | 8 | 浜口雄幸 | 9 | 高橋是清 | | |

(ハ) 1937年、(K) をきっかけに、宣戦布告のないまま日中戦争が始まると、戦時体制の強化をはかった(L) 内閣は、国民精神総動員運動を主導し思想統一をはかり、1938年には(M) を制定して物資や労働力編成の統制を行った。1939年には軍需産業への労働力動員のため(N) が定められた。また、労資協調・国策協力のため、各職場に(O) がつくられるなど、総力戦体制が目指された。

- | | | | | |
|----------|---------|--------|---------|--------|
| 1 柳条湖事件 | 2 西安事件 | 3 近衛文麿 | 4 平沼騏一郎 | 5 東条英機 |
| 6 国家総動員法 | 7 国民徴用令 | 8 隣組 | 9 大政翼賛会 | |

Ⅲ 次の文章の空欄(A ～ H) に該当する適切な語句を記入しなさい。

律令国家は、8世紀前半に入り、古代の東北地方に居住する蝦夷に対する軍事的な政策を行った。日本海側には708年頃に(A) 柵を築き、712年に(A) 国を設置し、太平洋側には724年に(B) 城を築いて鎮守府を置き、蝦夷対策の拠点とした。その後も律令国家は(B) 城以北に防御施設と行政施設を兼ねた数多くの(C) を造営し、その周辺には人々を移住させて開拓を行い、更に帰順した蝦夷を(D) として国内各地に移住させ、東北支配を進めた。

8世紀後半になり、律令国家の征夷政策が東北地方北部に及ぶようになると、780年に蝦夷の首長である(E) が大規模な反乱をおこし、三十数年に及ぶ蝦夷との全面戦争に入った。このような情勢下で即位した(F) 天皇は蝦夷征討に力を入れ、802年には征夷大將軍の坂上田村麻呂を派遣して(G) 城を築き、蝦夷の族長の阿弭流為を帰順させ、鎮守府を(B) 城から移した。803年には北上川上流に志波城を築き、律令国家の支配権は東北地方の北部にまで及ぶこととなった。

しかし、蝦夷征討は平安京造営と並び、国家財政や人々に大きな負担となっていたため、(H) 年に(F) は徳政論争と呼ばれる議論を裁定して征夷を停止した。これにより律令国家と蝦夷の関係は新たな段階に入った。

Ⅳ 次の史料(イ～ホ)を読んで、設問に答えなさい。

(イ) 兩國司トハ、武蔵・相模兩國ノ国司御名也。 將軍家執権御事也。執権トハ、政務ノ御代官也。又兩所トモ ^{これをもうす} 申之。但 ^{ただし} 武蔵守・ 相模守 ^{ときにより}、依 ^{さだまらず} 時官爵不定。

(ロ) 三条殿は六十六ヶ国に寺を一字づゝ建立し、 ^{おのおの} 各安国寺と号し、 ^{おなじく} 同塔婆一基を造立して所願を ^{よせ} 寄られ、御身の振舞廉直にして、げに ^{しく} 敷いつはれる御色なし。此故に御政道の事を 將軍 より御讓 ^{おゆづり} ありしに、固く御辞退再三にをよぶといへども、 上御所 御懇望ありしほどに御領状あり。其後は政務の事におひては、一塵も將軍より御口入の儀なし。

(ハ) 大御所・錦小路殿 (大休寺殿) の 御中違 の時も一天下の人の思ひし事は、当家の御中世を
めされん事まで、あながちに御兄弟の間をばいづれと不可申とて、両御所に思ひ思ひに付申き。
其時も諸人の存様は大休寺殿は政道私わたらせ給はねば捨がたし。大御所は弓矢の將軍にて
更に私曲わたらせ給はず、是また捨申がたしと也。

(ニ) 細河右馬頭頼之、其比西国ノ成敗ヲ 司 テ、敵ヲ亡シ人ヲナツケ、諸事ノ沙汰ノ途轍、少シ
先代 貞永・貞応 ノ旧規ニ相似タリト聞ヘケル間、則 天下ノ管領職ニ令居、御幼稚ノ若君 ヲ
可奉輔佐ト、群議同赴ニ定リシカバ、右馬頭 頼之 ヲ武蔵守ニ補任シテ、執事職ヲ司ル。

(ホ) そもそも前管領入道右京大夫 満元 朝臣逝去三ヶ日の内、興遊皆これを憚る。其の故は、当時
彼の輩は執政の器なり。尤も古昔の大臣に異なるべからざるか。

(原文を一部修正)

問1 下線 a 「將軍家」のうち、25歳の時に謀叛の疑いで京都に送還され、文永の役直前に死去した
のは誰か。

問2 下線 b 「相模守」に任ぜられた執権の中で、所領をめぐる裁判の迅速・公正を図るため、引付
という機関を新設したのは誰か。

問3 史料(ロ・ハ)の二重下線「將軍」「上御所」「大御所」はすべて同じ人物である。この人物の
執事で、江戸時代の浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』の敵役とされたのは誰か。

問4 下線 c 「御中違」による争いを、一般に何というか。

問5 下線 d 「貞永」の頃に幕府政治を主導していたのは誰か。

問6 下線 e 「御幼稚ノ若君」とは誰か。

問7 下線 f 「頼之」の管領在任中、九州探題に任ぜられて南朝勢力の制圧に活躍したのは誰か。

問8 下線 f 「頼之」が管領在任中の1368年、守護の莊園侵略に一定の枠を設けて、守護領化を公認
するとともに、公家や寺社の所領を保護する目的で発せられた法令を何というか。

問9 下線 g 「満元」が管領として將軍義持を補佐していた時期、鎌倉公方と前関東管領との間に
起こった戦乱を何というか。

問10 室町幕府の管領というポストは、どのような経緯の上に、どのような特質をもつ職として成立
したのか、「執権」「執事」「二頭政治」の3つの語を用いて、100字以内で論述しなさい。

(下書き用)

100

V 次の史料を読んで、設問に答えなさい。

当時太平の御世には御座候えども、人の身にたとえ候えば甚だ不養生にて、種々さまざまの病症きざし居り候（中略）右の病症委細は筆紙に尽し兼ね候えども、大筋は内憂と外患との二つに御座候。内憂は海内の憂いにて、外患は海外の患いに御座候（中略）凶年にて百姓の飢死候をも見殺しにいたし、武備は手薄く候て士民懦弱に相成り居り候故、近年 三州・甲州の百姓一揆徒党を結び、又は 大坂の奸賊容易ならざる企て仕り、猶当年も 佐渡の一揆御座候は、畢竟下々にて上を怨み候と、上を恐れざるより起り申し候（中略）海外の国にては日本の富有るをうらやましく存じ候義勿論に御座候。五世界の内、横文字を用い候国はみな邪宗の国にて、追々その宗旨をひろめ、今は日本と清国・朝鮮・琉球等のみにて、其他は残らず 御制禁の切支丹宗門と罷り成り候。清国は何を申すも大国ゆえ、夷狄も容易に手を出し申すまじく、朝鮮・琉球等は貧弱の小国に候間、目かけ申すまじく、さ候えば 第一に日本をねらい、次に清国をきりしたがえ候手順に御座候わん故、実に憂うべく悪むべき事に御座候。

(原文を一部修正)

注 当時：現在の意 五世界：アジア，ヨーロッパ，アフリカ，北アメリカ，南アメリカを指す

- 問1 本史料は、天保9年に水戸藩主が記した意見書の抜粋であるが、(イ) この藩主の氏名と、
(ロ) 彼が設立した藩校の名を記しなさい。
- 問2 下線aの事件名を(イ) 三州と(ロ) 甲州に分けて記しなさい。
- 問3 下線bは武装蜂起を指すが、(イ) その指導者名と(ロ) 彼の家塾名を記しなさい。
- 問4 下線cと関わって命を落とした善兵衛は、後に顕彰されることとなるが、このような人物を何と呼ぶか。
- 問5 下線dと関わり、キリスト教禁止の高札は明治時代に入って撤廃されることとなる。その年は西暦何年か。

問6 下線eの予測に反し、先に清国が開戦することとなった。この戦争の結果と、その前後における江戸幕府の外国船対策について100字以内で説明しなさい。

(下書き用)

100